

減少続ける農家数

“專業農家数”は増加

— 昭和51年茨城県農業基本調査から —

昭和51年2月1日現在で行われた昭和51年茨城県農業基本調査の結果の概要は、次のとおりである。

【結果の概要】

1 総農家数

昭和51年2月1日現在の本県の農業事業体数は178,854である。このうち、農家数は178,760戸で前年(181,074戸)に比べ1.3%(2,314戸)の減少となった。

農家数は、第1表で示すように年々減少の傾向を示しているが、減少率は前年より0.5ポイント大きくなった。

また、農家率は、総世帯数の増加と相まって30.1%と今まで最も低い割合となった。

注) 農業事業体とは次の各号の一に該当するものをいう。

- (1)経営耕地面積が10アール以上で農業を行う世帯
- (2)経営耕地面積が10アール未満でも調査期日前1年間における農業生産物の総販売額が7万円以上である世帯
- (3)学校、試験場、協同組合及び会社等のうち上記(1)、(2)のいずれかに該当する農家以外の事業所

第1表 農家数の推移

単位：戸

区 分	農 家 数 A	総世帯数 B	農 家 率 A/B	増 減 率
昭和40年	201,485	420,785	47.9%	—%
47	187,607	529,564	35.4	—
48	184,786	540,750	34.2	△ 1.5
49	182,509	555,168	32.9	△ 1.2
50	181,074	572,639	31.6	△ 0.8
51	178,760	593,760	30.1	△ 1.3

注) 農家率＝農家数÷総世帯数

総世帯数は各年の2月1日現在の常住人口調査による

地域別にみた農家率は、県北地域が24.1%と最も低く、次いで県南地域の32.6%、鹿行地域の37.4%、県西地域の37.7%となった。また前年との比較でも各地域とも農家率が低下した。

市郡別にみた農家率は、市部(18市)が15.8%と低いのに対し、郡部(74町村)は46.2%で農家の占める割合は高い。

農家数を経営規模別にみると、前年と同様に100～150アール未満層が22.4%(前年22.3%)と最も多く、次いで70～100アール未満層が15.8%、150～200アール未満層が14.3%となりこの3層で52.5%を占めている。

農家数を專業兼業別にみると、專業農家は26,471戸(14.8%)、農業を主とする第1種兼業農家は62,305戸(34.9%)、農業を従とする第2種兼業農家は89,984戸(50.3%)となった。

專業農家が総農家に占める割合は年々低下してきたが、本年は前年に比べ6.6%(1,640戸)の増加となった。

地域別にみると、專業農家の割合は鹿行地域の21.9%が最も高く、次いで県北地域の14.6%、県西地域の14.1%、県南地域の12.8%となっている。

また、兼業農家のうち第2種兼業農家について地域別にみると、県北地域の55.4%が最も高くなり、次いで県西地域の49.2%、県南地域の47.6%、鹿行地域の42.8%となっている。

兼業農家152,289戸について、家としての主な兼業種類別農家数の構成をみると、雇われ兼業農家は129,862戸(85.3%)、自営兼業農家は22,427戸(14.7%)となり、前年と同様に雇われ兼業が大部分を占めている。

次に兼業農家の主な種類をみると、「工具・店員・運転手など」が36.1%と最も多く、次いで「季節出稼ぎ・人夫・日雇いなど」の27.1%、「事務・技術・教職員など」の22.1%となっている。

また、兼業農家のうち、第1種兼業農家では、雇われ兼業が92.2%を占め、種類別では「季節出稼ぎ・人夫・日雇いなど」が41.6%を占めている。第2種兼業農家については、雇われ兼業は80.5%、自営兼業が19.5%となっている。

種類別にみると、「工具・店員・運転手など」が39.9%、次いで「事務・技術・教職員など」の23.5%、「季節出稼ぎ・人夫・日雇いなど」の17.1%となり、第1種兼業農家と比べ「季節出稼ぎ・人夫・日雇いなど」の割合が低くな

っている。

第2表 家としての主な兼業種類別農家数

単位：戸

区 分	総 数	やとわれ兼業				自 営 兼 業				
		合 計	事務・技 術・教職 員 など	工員・店 員・運転 手 など	季節出稼 ぎ・人夫・日 雇いなど	合 計	林 業	漁 業	その他	
合 計	152,289	129,862	33,597	54,960	41,305	22,427	669	1,060	20,698	
第 1 種 兼 業	62,305	57,447	12,465	19,050	25,932	4,858	382	367	4,109	
第 2 種 兼 業	89,984	72,415	21,132	35,910	15,373	17,569	287	693	16,589	
構 成 比 (%)	合 計	100.0	85.3	22.1	36.1	27.1	14.7	0.4	0.7	13.6
	第 1 種 兼 業	100.0	92.2	20.0	30.6	41.6	7.8	0.6	0.6	6.6
	第 2 種 兼 業	100.0	80.5	23.5	39.9	17.1	19.5	0.3	0.8	18.4

2 農家人口

域が27.5%，県西地域が25.6%，鹿行地域が11.7%となっ

ている。

り、その減少率は1.9%である。

第3表 農家人口の推移

単位：人

男女別にみると、男が427,788人(48.9%)で、女が446,491人(51.1%)と女子が18,703人多くなっている。

区 分	総 人 口	農 家 人 口	総人口に対 する農家人 口の割合	農家1世帯 当たり人員	県 平 均 世 帯 員 数
昭和40年	2,081,430	1,103,834	53.0%	5.4	4.9
47	2,192,523	943,626	43.0	5.0	4.1
48	2,223,366	920,432	41.4	5.0	4.1
49	2,264,514	903,903	39.9	5.0	4.1
50	2,309,259	891,298	38.6	4.9	4.0
51	2,354,933	874,279	37.1	4.9	4.0

県内総人口に対する農家人口の割合は37.1%で今まで最も低いものとなった。また農家1世帯当たりの平均人員は4.9人で前年と同様であった。

注) 総人口は各年の2月1日現在の常住人口調査による

次に、県内総農家人口に対する地域別農家人口の割合をみると、県北地域が35.2%，県南地

3 経営耕地面積

地域別にみると、田の割合が一番高いのは県南地域の

総経営耕地面積は186,077ヘクタールで年々減少している。その内訳は田102,943ヘクタール、畑68,890ヘクタール、樹園地14,244ヘクタールとなった。

60.7%で、次いで県西地域の59.7%となっている。畑では鹿行地域の50.4%が最も高く次いで県北地域の40.9%となっている。

総経営耕地面積のうち田は55.3%を占め、次いで畑が37.0%，樹園地が7.7%となっている。

また1戸当たりの経営耕地面積は1.04ヘクタールとなった。

第4表 地域別経営耕地面積

単位：ヘクタール

区 分	農 家 数	経営耕地面積		田		畑		樹 園 地		農家1戸当たりの経営面積			
		戸	%		%		%		%	合計	田	畑	樹園地
全 県	178,760	186,077	100.0	102,943	55.3	68,890	37.0	14,244	7.7	1.04	0.58	0.39	0.07
県北地域	66,238	57,700	100.0	28,912	50.1	23,612	40.9	5,176	9.0	0.87	0.44	0.36	0.07
鹿行地域	20,293	22,773	100.0	10,387	45.6	11,486	50.4	900	4.0	1.12	0.51	0.57	0.04
県南地域	49,049	58,213	100.0	35,359	60.7	17,175	29.5	5,679	9.8	1.19	0.72	0.35	0.12
県西地域	43,180	47,391	100.0	28,285	59.7	16,617	35.1	2,489	5.2	1.10	0.66	0.38	0.06

(県統計課 農林統計係)